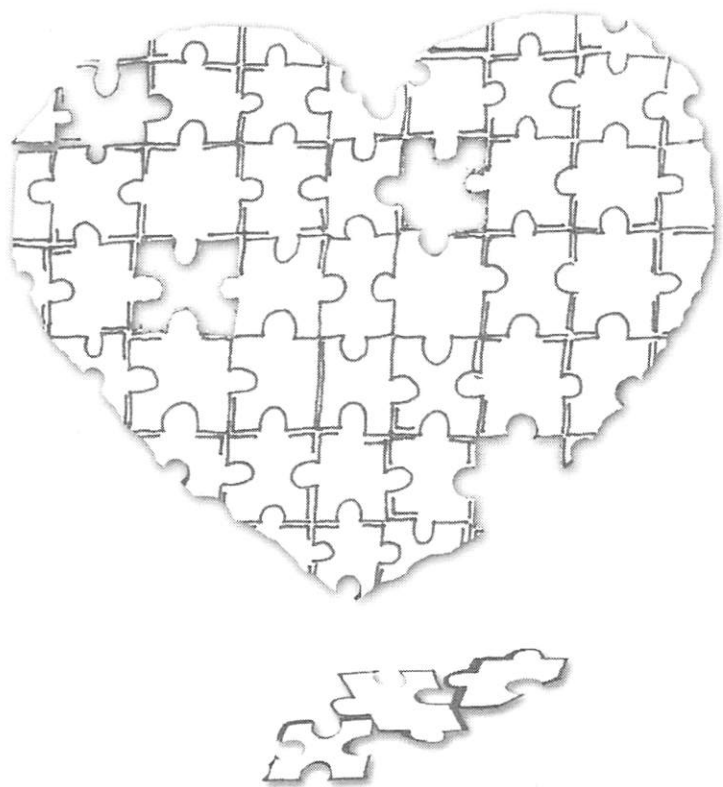


平成18年
2月号

250円

やすらぎ

人と人をつなぐ月刊総合誌



人間性

イフラス(誠実さ、意思の純粹さ)

愛されていると感じるとき

『フォレスト・ガンプ 一期一会』

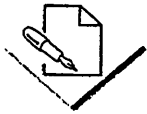
冬眠～神の存在のサインとして～

サジュダ・遠くから家に戻ったような

「愛」に関する物語、2作

「人々を愛し、愛していることを実感させることは、知の半ばを占めるものである。」 p.3

「ギリシヤ哲学(キリスト教哲学)では、愛を「エロス(恋愛)」と「フィリア(友愛)」と「アガペー(無償の愛)」に分類するようです。語句の意味・内容に関しては私も門外漢ですので何ともいえませんが、一般的にはエロスが男女の愛など対象そのものに向かいそのものもつ価値に惹かれる愛であるのに対し、アガペーは他者中心、見返りを求めないような献身という愛の形であるといわれています。」 p.14



つい先日、人生初のインフルエンザにかかってしまいました。典型的な諸症状にひとしきり襲われ、一週間近くも仕事を休んで、普段あまり病気をしない私としてはちょっとした一大事でした。

小学生と接することも多い職場にいますが、久しぶりに会った顔見知りの子どもから「大丈夫？」と心底心配していたという様子で話しかけられたときには、その心からの優しさ、あまりの純粋さに思わず心打たれ、ハッとさせられました。翻って自分自身はといえば、周囲に誰か体調を崩している人がいると聞いても一瞬心配はするものの、次の瞬間には他のことでまた頭を一杯にさせ、見舞いの電話をかけた後快復を祈ることも怠っている情けない状態です。

自分にしてほしいと思うことを他人にもしてあげること。こんなごく当たり前ともいえる心の使い方、他人への愛情の持ち方をおろそかにしていることは、この他にもたくさんの場面で思い当たります。忙しい、忙しいと大そうなことをやっているかのような気になっていても、振り返ると何も残っておらず空虚な気持ちになることもしばしばです。愛情を持って人に接することに関して鈍感となり、文字通り「心」を「亡」ぼしてしまうことのないようにしたいものです。



編集部より	2
人間性	3
祈りのある毎日へ	5
ドーナツの作り方	5
イフラス (誠実さ、意思の純粋さ)	6
ヘアメイクけいこさんのインタビュー	8
遠い未来についての言及	9
ご病気の方々へのメッセージ	11
愛されていると感じるとき	13
『フォレスト・ガンブ 一期一会』	14
冬眠～神の存在のサインとして～	16
アンネより	20
さあ、礼拝からはじめよう	21
サジュダ・遠くから家に戻ったような	25
「愛」に関する物語、2作	27





あなたが人に期待する振舞いは、人があなたに期待する振舞いでもある。

人を助けようと努めることは、アッラーの恵み深さに捧げられる最も雄弁な招待状となる。

ただ微笑むことによってであれ、あなたの兄弟姉妹を喜ばせることを忘れてはいけない。

人々を愛し、愛していることを実感させることは、知の半ばを占めるものである。

人々のうちにおけるあなたの立場は、あなたにとっての彼らが占める場所と同等である。

いつでも周囲の人を怒鳴りつける人は、その希望に反して親友たちを失い、敵対する人たちを喜ばせる。

どこにでも首を突っ込む人は、犯罪から逃れることができない。

あなたを喜ばせる事々は、人々をも喜ばせるものである、ということを忘れてはいけない。

利口な人は、周囲の人の力をも、自分のために生かすことができる。愚かな人、不器用な人は、この秘められた力を生かすどころか、周囲の力が彼を妨げるような方向にことを運ぶ。

近所付き合いとは、近所に住む人たちに対して行なわれるものだ。

その人の災いを恐れるのなら、あなたの善によってその人を和ませることができないか、試してみなさい。

罰を受けさせることができる場合、その人を許しなさい。その許しは尊いものとなる。



あなたの母の胸に抱かれることのなかった、多くの弟妹たちが存在することを決して忘れてはいけない。

無条件に従う人々を除き、狂信的な人々は、周囲の人々を虐げる。

全ての人を満足させることが、全ての勇敢な人々に利益をもたらすとは限らない。

よいことを目にするための道は、よいことを行なうことから通じる。

悪意は人を目も耳もきかず、心も失った状態にさせる。

よいことであれ、悪いことであれ、他人に対して行なったことは、明日あなたの身に起こることの種となる。

魂の鏡においては、善と悪は共に並んでいる。

理想的な人とは、ろうそくのように自らを燃やし、他人に光を与える人である。

舌が長く、手が短いというのは、蛇には妥当なことであっても、人間にとっては蛇のようになってしまったということを意味する。

許すことの価値は、罰を与える力や、及ぼすことのできる権力に比例する。



恵み溢れるお方よ

恵み広きお方よ

英知ある神聖なるお方よ

能力が完璧なるお方よ

証しが明らかなお方よ

もてなしがおおらかなお方よ

属性が卓越されたお方よ

御力が永続するお方よ

力強いお方よ

恩恵を優先なさるお方よ

あなたは完全無欠なお方、あなたに栄光あれ、あなたの他に真の神は存在しません。私達を地獄の炎からお助け下さい。¹



ドーナツの作り方

材料 薄力粉 250 グラム ベーキングパウダー 小2 バター 50 グラム
砂糖 60 グラム 塩 少々 ナツメグ 少々 卵 2 牛乳 大2

作り方

- 1 バターを柔らかくする
- 2 砂糖を入れる
- 3 塩 ナツメグも入れる
- 4 卵 牛乳も加える
- 5 ふるった小麦粉 ベーキングパウダーを入れる
- 6 上記をひとかたまりにして、サランラップに包んで、冷蔵庫で30～60分休ませる
- 7 形を作って、油で揚げる
- 8 熱いうちに砂糖をまぶす

¹ 偉大なる鎖帷子（ジャウシャヌルカビール）には、祈願（きがん）、唱念、救いを望むことが記されています。それは、真の主アッラーの多くの御名を知らしめ、それらの御名と共にアッラーへ祈願し、近づく方法を示す大変貴重な意味深い書です。鎖帷子は戦いの時、身を攻撃から守るために着ます。人間の靈魂に授けられた善美を守るためには、偉大なる鎖帷子のような精神的鎧が必要です。本来、偉大なる鎖帷子（ジャウシャヌカビール）が精神的世界のみではなく、物理的世界においても守りとなると伝えられています。



イフラス(誠実さ、意思の純粹さ)

イフラスは、まっすぐであること、誠実であること、純粹であること、意思と行為において見せびらかしや誇示といったことから距離をとること、心を曇らせたり汚したりするものに対しては心を閉ざすことなどと訳されてきました。これには、意思の純粹さ、まっすぐな思考、アッラーとの関係において現世的な目的を求めないこと、アッラーの忠実なしもべであることも含まれます。

アッラーを崇拜しアッラーに従うということにおいて現世的なものは何も求めないことや、ただアッラーが命じられるが故にしもべとしての義務を果たすこと、アッラーの特別な取り計らいや贈り物に関する個人的な経験については口を閉ざし、アッラーに受け入れられることとアッラーのご満悦だけを求めることが、イフラスには必要とされます。

誠実さは最も敬虔でありアッラーに対して忠実である人々の最も重要な性質の一つです。忠実さを水源、そこから湧き出る甘い水を誠実さだと考えることができます。預言者ムハンマド(彼の上に平安と祝福あれ)は、「その水を四十日間絶え間なく飲み続ける者は、その心から舌へと英知の水路が通ることになり、その者は常に英知を語るようになる。」とおっしゃられました。

忠実さや敬虔さは預言者の重要な特質であり、誠実さはその輝かしい一面です。誠実さは預言者たちには生来備わっているものですが、他のすべての人々は人生において手に入れようとします。例えば、聖クルアーンでは預言者ムーサーは誠実な者として創られたと描写されています。(19:51)

預言者たちのメッセージを伝える人々にとって、どの時代でも空気や水がそうであるように、敬虔さと誠実さは預言者たちにとって本質的で不可欠なものなのです。その上、それらは預言者たちの最も重要な力の源でした。預言者たちは、誠実さなくしては一步たりとも進むことはできないと考えていましたし、預言者たちの掲げられた理想の承継人たちはそれがなくてはできることは何もないと信じなければなりません。敬虔さと誠実さは二つの翼であり、アッラーの慈悲や恩恵からそれぞれの心へと広がる二つの深い海であります。この翼で飛べる人やこの海を渡れる人は、アッラーの保護の下で目的地へ辿り着くことができます。アッラーはアッラーのお喜びのためにされたことを評価されます。外見上の大きさや重要性、行いの量は関係ありません。そのため、アッラーは誠実さなく行われた多くの善行よりも誠実さをもって行われた一つの小さな善行の方を評価されるのです。

誠実さは心の性質であり、アッラーはそれぞれの心の性質によって個人を見られます。預言者ムハンマド(彼の上に平安と祝福あれ)は、「確かに、アッラーはあなたがたの肉体や外見については評価されない。あなたがたの心を見られるのである。」誠実さは、少ないものを増やし、浅いものを深め、限界のある崇拜に無限の報奨を与えられるために、純粹な心を持つ者に認められたアッラーからの秘密の貸付金なのです。受け取った人は、それを現世と来世の市場で最も価値のあるものを買うために使うことができます。それは、他の人々が大変な惨めさに苦しんでいるところにおいて、高く評価され、歓迎され、尊重さ

れるからです。この誠実さの不思議な力のために、預言者（彼の上に平安と祝福あれ）は「宗教において誠実でありなさい。（誠実さを持った）小さな行いであなた方には十分なのです。」「行いにおいて誠実でありなさい。アッラーは誠実さを持って行われたことだけを受けられるのだから。」とおっしゃられました。

行いが肉体だとすると、誠実さはその魂ということができます。行いが二つの翼の片方だとすると、誠実さはもう片方です。魂のない肉体には価値がなく、一つの翼だけで飛べるものではありません。マウラナ・ジャラル・アッ=ディーン・アッ=ルーミーの言葉は何と素晴らしいのでしょうか。

すべての行いにおいて誠実であるべきである。

そうすれば、偉大なる主に受け入れてもらえるかもしれない。

誠実さは服従の行為という鳥の翼である。

翼なくして、どうやって幸福の住まいまで飛んでいこうというのだ？

次のバヤズィド・アル=ビスターミの言葉もまたとても適切です。

私は三十年間自分の強さの限りにアッラーを崇拝してきた。そして「おおバヤズィドよ！アッラーの宝物は崇拝行為で満ちている。アッラーに近づきたいと思うのであれば、アッラーのドアにおいてはほれだけ自分が小さいかを見、行いにおいて誠実であれ。」という声を聞いた。

義務以上の善行を行うときに、見せびらかしや誇示にならないようにするために、他の人々から隠れることが、ある人々にとっては誠実さです。宗教的行為を行う際に他人から見られているかどうかは重要ではないということが誠実さである人々もいます。また、崇拝行為やアッラーのご満悦を求めて行う宗教的行為に没頭するが故に、自分が誠実であったかどうか覚えていないことが誠実さになる人々もいるのです。



自己監督は誠実さの不可欠な一側面であり、本当に誠実な人は得られうるどんな精神的満足をも考えず、それが楽園の入り口を開いてくれるものかどうかを考えたりもしません。誠実さはアッラーとしもべとの秘密であり、アッラーは愛される者の心にそれを与えられるのです。誠実さについて気付いた心の持ち主は、称賛も非難も、高い地位を与えられても貶められても、行為に気付いていてもいなくても、報奨があろうとなかろうと、気になりません。このような人は、他人がいる場所でもいない場所でも変わらずに振舞うのです。



Q： 何時頃からヘアメイクという職業をやりたいと思ったのですか？

A： 小学生の頃人形のヘアスタイルを変えようと髪を切ったり、友人の髪型を変えてあげて喜んでもらったりしたことから次第に、将来はヘアメイクをやりたいと思うようになりました。

初めに美容師の免許をとり美容院に勤務していたのですが、その後雑誌やショーの仕事が出来るお店に勤務し、今は美容師とフリーでブライダルや雑誌のヘアメイク等をしています。

Q： ファッションショーのヘアメイクが出来る店というのは自分で探したのですか？

A： 以前「オリーブ」「anan」をメインでヘアメイクをしていた男性がいたのですが、とても素晴らしい技術を持っていてあこがれていました。その方が勤務していたお店に試験を受けて入りました。

Q： 美容師はキツイ仕事とのイメージがありますが？

A： 私も美容師の方からキツイ仕事だから止めたほうが良いと言われましたが、実際自分がやってみて、キツイと感じたことはないですね。確かに長時間の勤務になりますし、店を閉めた後も色々あることで終わる時間が決まらず、友人と待ち合わせとかはしづらかったですが、それよりも、ヘアカットなど、地味な仕事だけお客さんに喜んでもらえた時「こんな自分でも役に立っている」と思うし、大きなことが出来なくても、小さくてもやりたいと思ったことを大切にやっていくことが良いと思っています。

Q： ヘアメイクなど流行を先取りしている職業に思いますが、どのように勉強しているのですか？

A： 見る学習ですね。写真展や美術館は時間があれば良く行きますし、ダリ・ルノアール・モネの作品は結構好きです。無名の方の展覧会も進んでいくようにしています。

以前、フランスの美術館でルノアールの素晴らしい肌色を見て、自分の作り出したことがないほどの素晴らしい色だったので感動しました。その頃、日本の雑誌を見て、ワンパターンだと思っていたので、もっと勉強したいと思い美容の歴史を見るために1年間ワーホリで34ヶ国ほどめぐりました。

Q： 34カ国とはすごいですね、どのようなことを学び、今の仕事に生かしていますか？

A： シンプルなことの良さやありがたみを あたりまえのように思っていたことに改めて気づかせられたので、あらゆることへの感謝の気持ちと物を大切にする気持ちを忘れないようにすることと、日本では、常に新しいものを求めているわりに飽きっぽく物を大切にしない傾向があり無駄が多いと感じることが増えました。少しづつでも伝えられること、できるときにできることは、できる限りしておきたい、という感覚が以前よりも強まり、仕事にも生かしていきたいと思っています。



遠い未来についての言及

7. 学問の広がり

預言者ムハンマドはあるハディースで、アッラーの命令を次のように伝えておられる。「終末が近づくと、学問が大いに広がりを見せる。男も女も学ぶ。奴隷も、召使いも、学ぶ。大人も子供も、学ぶ」²

それぞれの段階に応じて学校が開かれ、どこも学びたいという人でいっぱいになり、あたかも競い合うように学ぶ。今日見られる多数の学校、大学、世界規模で進歩する科学、情報通信手段、これらは皆預言者ムハンマドが伝えられたとおり、学問、科学の時代がきたことを意味するのである。そしてこの進歩、広がりもまた、預言者ムハンマドの正しさを示しているのである。あたかも、学問に関する全機関が皆、預言者ムハンマドに「あなたの言葉は正しい」と言っているようである。

8. 聖クルアーンからの逃避

さらに、預言者ムハンマドは、今日の状態にまさにぴったり合う、次のような言及をされている。「聖クルアーンがはばかれるものとなり、イスラームが哀れな存在となるまでは、終末は訪れないだろう」³

無神論者が宗教に対する反感を平気で明らかにするのに対して、ムスリムたちはまるでムスリムであることが恥ずべきことであるかのように感じ、口にするのも辛いありさまになる。無神論者が、自分たちの思考、あるいは書物などをバスや飛行機やさまざまなところで宣伝するのに対して、ムスリムは聖クルアーンを開いて読むことができないだろう。精神的抑圧によって、禁止されてはいないはずの聖クルアーンを誤ったことか何かのように感じ、恥ずべきことと感じ、隠すだろう。これらの事実を否定することはできるだろうか？ そう、今日のイスラーム教徒が体験している数々の出来事のうちの一つが、まさにこれなのである。イスラームは哀れな存在となっているのである。

哀しむべき我々の実情の描写はこれくらいにしよう。これらのことを全て、預言者ムハンマドは、何世紀も前に伝えられているのである。もたらされたお告げは全て、その時期が来るとそのまま実現し、預言者ムハンマドの正当性を証明している。これらのことは、我々を改めて預言者ムハンマドに従わせるのに十分ではないだろうか？

9. 時間の概念

他のハディースでも同じように、終末の前兆として聖クルアーンを恥じるようになるであろうということ

² Darimi, Muqaddimah 27

³ Hindi, Kanz al-'Ummal 14/244

が述べられているが、預言者ムハンマドはその続きの部分で、次のように述べておられる。「時間や距離においてその短縮が見られるようになるまでは、終末の日はやってこない」⁴

ここで使われている「テカーリブ」という言葉は、二つのものがお互いに近づくということを意味する。ここで預言者ムハンマドは、その頃長い時間をかけて行なわれていたことが、もっと短時間で行なわれるようになるであろうことを意味されている。工業や技術の発達によって、全ての分野で恐ろしいほど進歩した時代が来ていることは、子供でさえ普通に知っている事実である。このハディースはそのことについて言及すると同時に、現代の、距離を感じさせない状態をもたらすこれらの道具、手段についても言及しているのである。さらには、天文学に詳しい人なら知っていることであるが、次のようなことについても言及している。つまり、地球はわずかに楕円の形を取りつつあり、この変化が時間というものにも影響を与え得るということである。我々が気がつかないうちに、時間や地球のあり方に影響を与える可能性がある。加えて私がこのハディースから理解したことがもう一つある。時というものには確実なそのあり方がある。しかし例えば、おうし座星雲に行ったとして、そこから4千万光年離れたところで秒速15万キロで進んでいる彗星を見た^{わかい}としよう。その時には非常に異なった時間というものに気づくことになるだろう。光速の半分の速さで遠ざかる彗星においては、それが時間の単位なのである。同じようなことが、他でも通用する。

いつか太陽系のシステムから抜け出す日が来れば、現在の時間に関する概念は全く覆されることになるであろう。

預言者ムハンマドは、その神秘に満ちた「時が互いに近づく」という言葉で、時間の観念や新たな時間の単位について、言及されているのである。

ここで尋ねたい。このような言葉が、人間の言葉であり得るだろうか。時や距離をその力強い御手で操られるお方以外、こういったことを誰が知りえるだろうか？ これらのことは、読み書きすら知らない、無明の時代の人を知ることでできるものだろうか？ もちろん不可能である。そのお方に、これらの全てを教えたのはアッラーである。預言者ムハンマドはただ、アッラーが教えられたことを伝えているのである。

月日が流れ、何世紀もが過ぎた。科学や技術は足早に進歩している。そしてその結果、預言者ムハンマドが何世紀も前述べられたことの正しさが確認されている。科学者たちはその驚きを隠しきれないでいる。心から、預言者ムハンマドに「あなたはまさに正しい」と言っているのである。



⁴ Haithami, Majma' al-Zawa'id 7/324

ご病気の方々へのメッセージ

第16の治療薬

苦しみから不平を述べる悪い人よ。病は、人間社会における生活で最も重要、かつ素晴らしいものである尊敬や憐れみといった思想を定着させるものである。なぜなら、人を粗暴で非情にする自負心と言うものから救われることになるからである。凝血章6～7節の「いや、人間は本当に法外で、自分で何も足りないところはないと考えている」の言葉に秘められているように、健康であることからもたらされる自負心にひそむ、人を悪へと追い込む自我は、本来価値を置くべき兄弟愛や友情と言ったものに敬意を感じない。そして、憐れみや思いやりを必要としているはずの、災いに直面している人、病気を患っている人に対して憐れみを感じない。病気になった時、人はそれによって自らの弱さ、無力さを理解する。敬意を払うにふさわしい、兄弟愛といったようなものに対して、重きを置くようになる。お見舞いに来てくれた人々や助けになってくれた人々に対して、敬意を感じるようになる。同類に対する憐れみからもたらされる、人間同士に対しての憐れみ、そしてイスラームの最も重要な特徴である、災難に遭っている人々への憐れみを感じるようになる。彼らを真の意味で同情するようになり、憐れみをかけ、可能であれば彼らを助ける。それができなければドゥアーを行なう。シャリーア（イスラーム法）においてスナ（預言者の慣行）とされている、状態を尋ねることを目的にお見舞いに行き、善行を行ったことになるのだ。

第17の治療薬

病のために善行を行なうことができないと不平を言っている悪い人よ。感謝しなさい。最も純粋な偽りのない善行への扉をあなたに開くのが、病なのである。病は病人と、アッラーの承認のために病人の世話をする人に、常に善行の徳を獲得させる。それと共に、ドゥアーが受け入れられる最も重要な理由にもなる。

病人の世話をすることは、信者にとって善行となる。病人の具合を尋ねること、病人に迷惑をかけない範囲でお見舞いに行くことはスナ（預言者の慣行）である。罪の許しを求めるための行為にもなる。ハディースにも次のようなものがある。「病人からドゥアーを得るようにしなさい。彼らのドゥアーは受け入れられる」

特に、病人が親類から出た場合には、ことに父や母であった場合には、彼らに対する奉仕は重要な崇拝行為となる。重要な善行である。病人の心を喜ばせること、慰めを与えること、これらは重要なサダカの意味を持つ。父や母が病気である時に、彼らの傷つきやすい心を喜ばせ、彼らから祈りを得る子は、幸福である。

社会生活においての最も重要な真実である、父や母の憐れみ深さに対して、彼らが病気になった時に、敬意をもって、子供としてふさわしい憐れみを持って応える子の態度や、人間の尊厳を示すその忠実さにたいして天使達さえも「マーッシャー、パーレッカー」と拍手を送っているのだ。

そう、病気である時には、それがもたらす苦しみを消し去ってしまうような、周囲の憐れみ深さ、いたわり、思いやりなどから生まれる素晴らしい喜びが存在するのである。

病人のドゥアーが受け入れられる、と言うのも大切なことである。私は30年40年ずっと、肩の激痛という病から逃れるためにドゥアーをしてきた。そして理解したことは、この病はドゥアーのために与えられたのである。ドゥアーによってドゥアーそのものを取り除くことはあり得ないのであるから、ドゥアーからもたらされるべきものはあの世においてのものとなると私は理解したのだ。³それ自身も一種の崇拜行為であり、病気によって無力さを理解し神の扉の前に助けを乞い求めるようになるのだ。だからこそ、30年ドゥアーし続けたにも関わらず一見ドゥアーが受け入れられないように思えても、このドゥアーを放棄することはなかった。なぜなら、病とはドゥアーのための時であり、健康を取り戻すことはドゥアーの結果ではないからである。無限の慈悲深さをもたれ、全てを英知によって行なわれる神は健康を与えられるのであれば恵みとして与えられるのである。

さらに、ドゥアーが望む形で受け入れられなかったとしても、そのドゥアーが受け入れられなかったというわけではない。全てを英知によって行なわれる神はもっとよく御存知である。私たちのために最善が何であれ、それを与えられるのだ。時には、この世のために行ったドゥアーが、私たちのために、あの世でのものとされ、その形で受け入れられることもある。

何であれ、病に秘められた神秘によって純粹さ、偽りのなさを獲得した、特に無力さ、弱さ、謙虚さ、そして必要に迫られたところからのドゥアーは、受け入れられるに近い状態にある。病は、このような偽りのないドゥアーの要因となるものである。ことに、信仰深い病人、そして病人の世話をする信者たちは、このドゥアーの恩恵をうけるべきである。



³注：病は、ドゥアーが行なわれる理由になるものである。ドゥアーが病の消失をもたらすのであれば、ドゥアーの存在はドゥアーそれ自体の消失をもたらすものであることになる。これはあり得ない。

両親や兄弟達と話す時、友達と話す時や手紙をもらう時、私は愛を感じます。結婚してからは、もちろんその愛に加えて主人からの愛も感じます。知らない人でも優しい言葉をかけてくれる時や、親切にしてもらった時、「いいお天気ですね。」と言葉を交わす時には愛を感じる時があります。こうやって愛を感じる時には、自分も相手も人間としてとても素直な状態で、とても自然な状態の時だと思います。

子供の誕生を見た時、土から新しい芽がでていることに気付いた時、つぼみだった花が咲いた時、おいしい野菜がとれた時、太陽がさんさんと光をさしている時、川がきらきら流れている時、小鳥が小さい赤い実をくわえている姿を見たとき、森の木々が風にゆれて静かな音をたてているのを聞いた時、雪の結晶を見たとき、そんな時に私は愛らしいという気持ちとなんともいえない幸福感に満たされます。その満足感と幸福感は私をとっても幸せな気持ちにさせます。そしてその後には自分がとても素直になり、やさしい気持ちの自分があることに気付きます。私にとってはとても素晴らしいそれらの光景は、私に元気を与えて、そしてとても心地よい気持ちにさせてくれます。

私にとっては様々な情景を見て得られた幸福感は、人と接する時に得られる幸福感と似ています。全く害がなく、自然で、素直で、そこには「愛」が溢れているように思えます。私達は「愛」という言葉でしか表現できませんが、時々「愛」という言葉ではとてもたりないような感情がわき上がります。また、何かを愛する時にも幸福感を感じる時があります。例えば、子供を育てる時、ペットや動物をかわいがる時、花や植物、野菜を育てる時、人に親切にした時にはやはり幸福感を感じます。



こうして考えると愛をもらったと感じたときや、愛を与えた時には人は満足感や幸福感を感じているということがいえると思います。人が幸福感を得るためには愛を感じることや、愛を与えることがポイントのようです。愛に鈍感になりがちな毎日ですが、時には目を空に、時には耳を澄ませ、そして小さな愛を与えることで愛を感じ、満足感や幸福感を毎日の生活でもっともっと感じたいと思います。

『フォレスト・ガンブ 一期一会』 Forrest Gump

今月の『やすらぎ』のテーマは「愛」です。愛……「あなたにとって愛とは何ですか」なんて聞かれたら、困ってしまう言葉です。なんでしょう。どういうものでしょう。愛にはたくさんの種類があるような気がします。それは対象によってさまざまで、男女の愛もあれば親子愛・家族愛などもあったり、人間愛など対象が大きなものもあつたりします。

ギリシャ哲学（～キリスト教哲学）では、愛を「エロス（恋愛）」と「フィリア（友愛）」と「アガペー（無償の愛）」に分類するようです。語句の意味・内容に関しては私も門外漢ですので何ともいえませんが、一般的にはエロスが男女の愛など、対象そのものに向かいそのもののもつ価値に惹かれる愛であるのに対し、アガペーは他者中心、見返りを求めないような献身という愛の形であるといわれています。この、「見返りを求めず相手を愛する」ことを生涯貫いた一人の人物の映画があります。

それは、『フォレスト・ガンブ』という映画で、主人公ガンブのまっすぐな生き方が全世界を感動の渦に巻き込み（大袈裟かしら…）、第 67 回アカデミー賞の作品・監督・主演男優・脚色・編集・視覚効果の 6 部門を受賞しました。

アラバマ州で生まれ IQ 値が人より低かったフォレスト・ガンブ。母は何事にも動じず、女手一つでガンブを育て、普通の子供と同じように小学校に行かせたが、ガンブの友達に初登校日に出会った少女、ジェニーだけであった。ある日同級生にいじめられたフォレストは、ジェニーの「走って!」という言葉によって駆け出し、どこまでも走った。その駿足が認められ、大学に入りアメフトの選手になる。フォレストがずっと思いを寄せたジェニーは大学に行ったものの中退、フォレストの前からも姿を消す。その後ベトナム戦争が起こり、ある事件によってフォレストは英雄となる。平和集会に参加した彼はヒッピー運動に身を投じていたジェニーと再会するも、彼女はフォレストの一途な愛を受け入れず、去っていく…。

と、途中までのあらすじをみただけでも「わらしべ長者」風のイモヅル式な話の展開です。とにかく数奇な（ラッキーな？）人生を送った男の物語なのです。この映画を見たことが無い、という人はあまりいないだろうと思うので、ちょっと結末にまつわる話をします。もしまだ見ていない、という人がいたら、ここから先は見ただけから読んでください。

さて、映画を見た人々を感動させた一つのキーが、「フォレストの、ジェニーに対する一途な愛を貰ったところ」であると思います。

なんだかんだあって、フォレストの前に姿を現しては消えていったジェニーですが、最終的にはそれまでの生活がたたり、エイズにかかってしまいます。が、なんとフォレストの息子を身ごもり、息子に

フォレストと名づけて育てていました。それを知ったフォレストは、死期が近づき「本当に大事なもの」がなんだったかを悟ったジェニーと結婚、やがて彼女はこの世を去り、フォレストは息子を育てていきます。

なんてドラマチックな話なんだろう！……と、思いたかった私ですが、初めてこの映画を見たときから悩みました。「うーん、これは、自分勝手に生きた女に翻弄されたアホの話ではないのか!？」と。フォレストに全く非はないのでアホとは言い過ぎですが、とにかく自分の都合のいい時にだけフォレストの前に現れるジェニーに辟易してしまった事は事実です。自分だけ自由気ままに生き（そうするしかなかったのかもしれないが）、都合のいいときに現れ、自分を心から愛してくれ続けた「ヒーロー」と結婚し、子供を残して「いい思い出」になる…。なんだかずるい。自分の最期に「大事なもの」「探していたもの」に「気づく」というのも、ずるい気がします。フォレストがまっすぐな気持ちを貫き、それを守ることだけが生きがだったのに対して、なんだか失礼ではないかと。

…そう思っていたのですが、よく考えてみた結果、フォレストは別にジェニーの態度がどうであれ、自分に向けてくれたらよかったんだろうとも思うようになりました。人は、何か一つのものにこだわる事があります。それが生きがいになるなら、それもいいのかもしれません。もしかしたら、フォレストにとってジェニーは生涯かけて貫いた「こだわり」であって、愛ではないのかもしれません。イヤ、「こだわり」も一種の「愛」なのか??

…と、「愛とは何か」という悩みはつきないのですが、何はともあれ、フォレストは多少の知的障害があったゆえに、無償の愛ともいえる愛の形を保ち続けることが出来ました。周りに色々な誘惑がある私には、(人に対してだけでなく)何かに対してそのような愛を持ち続けるというのはなかなか難しいことです。フォレストは世の中を知らないゆえにそれが自然に出来ているという事、また、どういう状況であれ人を許せる心の広さを持っている、という事を評価すべきだったのに、男女の愛や人の関係のみに目がとらわれて「ジェニー最悪」としか思えなかった私は心が狭いなあ、と痛感します。

色々な愛の形、愛の対象があると思いますが、みなさんはどのようなモノ／事／人に、どのような愛情を持って日々生きていらっしゃるでしょうか？

『フォレスト・ガンブ 一期一会』 1994 アメリカ

監督：ロバート・ゼメキス

原作：ウィンストン・グルーム

出演：トム・ハンクス（フォレスト）／ロビン・ライト（ジェニー）



冬眠～神の存在のサインとして～

冬眠とは何か。それは、昼間の短さや、気温の低さや、食べ物の少なさによってもたらされる、動物の非活動的な状態をいう。それは、冬季の食料への需要を省くだけでなく、心拍数や呼吸数を減らすことによってエネルギーの消費を防ぐ作用もある。これらは神の英知を示すものである。

動物の平常時の体温は、平均で37度である。しかし、冬眠時の動物の体温は平均して6度にまで落ちる。これは通常時の体温の半分以下であり、氷点よりわずかに高いにすぎない。

例えば、冬眠中のマーモットの心拍数は、1分当たり80回から1分当たり4回にまで減少する。その体温は36.6度から3.3度にまで下がる。もし体温がそれ以上に下がれば、マーモットは目覚め、体を温めるためにわずかに身震いする。

もし、動物が、冬の気候が穏やかである地域に住んでいれば、冬眠はほんのわずかな時間行なわれるか、あるいは全く行なわれない。

なぜ、冬眠なのか～動物たちの一部はなぜ、冬の間眠るのか

気温が下がり、冬が訪れると、野生の動物たちの食料が減少する。冬眠は生き抜くための戦略であり、あらゆる被造物の主によって与えられたものである。動物たちは食べものを探し集める必要から逃げるだけでなく、エネルギーを維持することも可能となる。冬の間、いくつかの種類の動物、例えばクマなどを、私たちは見るができない。彼らは自分たちのねぐらにこもって冬眠しているのである。これらの動物は、この季節、食べ物を見つけることが非常に困難となる。そこで彼らは深い冬眠に入る。あるいは非活動的な状態になる。それにより動物は、彼らの平常時の基礎代謝率で活動している場合よりも遅い割合で、彼らの体のエネルギーを使用する。この冬眠のことを、「時間移動」と呼ぶ生態学者もいる。冬眠は、動物に、寒く厳しい季節を飛び越え、豊かな食物と穏やかな気候の季節にだけ、自らを生かす、ということをも可能にするのである。

動物たちはどうやって冬眠の時期を知りなのか

冬眠の時期を動物たちに示すいくつかのしるしは解明されてきているものの、この件はいまだ研究が続けられている。冬眠状態、もしくは休止状態に入る前に、動物たちは彼らの冬のベッドを準備し始

める。冬眠を行なう動物たちは、血液中にHIT (Hybernation Inducement Trigger=冬眠誘導物質) と呼ばれるものを持っている。この作用は若干、時計に似ている。最近の研究で、これは一種の麻酔剤、鎮静剤のようなもので、化学的に半モルヒネにつながるものである。昼間の時間が短くなり、気温が低下し、食物が減少すると、このHITが冬眠を誘発する。これがいかにして、なぜ起こるのかということは、まだ解明が待たれている謎である。

全ての冬眠は同じものなのか

正確には、同じではない。いくつかの動物は、「深い冬眠」を行なう。シマリス、マーモット、ハコガメ、ガーターヘビ、ヒキガエルなどである。これらは長い期間、非活動的状態にいる。深い冬眠の期間中、これらの動物の体温は5度前後である。この深い冬眠はまた、「真の冬眠」と呼ばれるものである。

他の動物は、より浅い形での冬眠であり、「休眠・活動休止 (トーパー)」とも呼ばれるものを行なう。シカネズミ、クロクマ、スカンク、アライグマなどがそれを行なう動物の例である。これらは短い時間、例えば夜の寒い時間帯などに行なわれ、動物たちの体温は15度以下にはならない。活動休止状態にある動物は比較的すばやく覚醒する。

一部の動物たちが生き延びるために冬眠する能力を与えられているのと同様、また一部の動物たちは、神からまた別の手段を与えられている。鳥は冬眠しないが、多くの種が温かい地域へと移動する。魚は冬眠しないが、より深いところにもぐり、また食物と酸素の必要量が夏場よりもかなり減る段階まで、活動を落とす。水生の昆虫は冬眠しない。陸地にいる昆虫の多くは死に、卵、幼虫、もしくはサナギの状態の子孫を残している。しかし一部の昆虫、例えばカなどの種類は、地下や水溜などの保護された場所で冬眠する。

冬眠動物は必ず冬眠しなければならないのか

冬眠する動物たちの一部は、「あらかじめ行なわれる休止状態」と呼ばれる状態を見せる。これらの動物たちは普通、冬の到来を予想させる、昼間の時間の短さに反応し、冬眠に入る。昆虫の休眠状態は、この、物理的に組み込まれた冬眠反応のひとつの例である。変温動物 (爬虫類や両生類など) もまた、昼の時間が短くなると、義務付けられたような冬眠反応を見せる。彼らの体温を維持する上で、周囲の暖かに依存しているこれらの動物は、こういった反応を必要とする。これによって、彼らにとって潜在的な死の危険をもたらす寒さに捕らえられることがなくなる。

他の動物たちは、冷えた状況にさらされた後、冬眠に入る。これらの動物は「結果として生じる休止状態」と呼ばれる状態を示す。この状態の不利な点は、潜在的に有害な状況にさらされるというところである。変温動物は特に、この「結果として生じる休止状態」の不利な点に対し弱い。しかし、もし、寒

さが襲ってきた後すぐに冬眠反応が起こるのであれば、このダメージは最小ですむ。「結果として生じる休止状態」の最大の利点は、動物たちが、冬のストレスが過度になる直前まで、活動していられるという点である。これは、もしその冬が特に穏やかであった場合は、冬の終わりまで活動することも可能、ということの意味する。この柔軟性は、変動しやすい気候、予想しにくい気候、もしくは緯度が非常に高いところ、低いところなどで生きている種にとって特に利点となる。

冬眠は寒い地域でのみ見られるのか

意外にも、答えはノーである。自然を観察し、この世界について学んでいくと、人は、全能なる神のすばらしいみわざに驚く。冬眠は、一般的には寒い気候で見られる現象であるが、実は砂漠でも行なわれているのだ。以前から知られている砂漠の冬眠動物はサバクガメである。それは寒さの到来とともに頭を地中の穴に入れる。この状態で、代謝、消化、排尿、排便などを大幅に減らす。ゴールモス虫という、ほとんどの人にまだ知られていない芋虫は、典型的な二つ目の種類である。彼らはあらゆることをして、凍ってしまうことを避ける。私たちの大半が考えることに相違して、水は、もしそれが不純物を含んでいなければマイナス40度までは凍らずにいることができる。そこでこの虫は、少量の水が含まれた彼らの体を、内臓から食物の破片やバクテリアを取り除くことによって浄化する。さらに、彼らは不凍液を作り出す。これは、車でよく使われているものほとんど同じであるが、凍えることに對し寛容である動物たちによって使われているものとは異なっている。この二つの方法で、この虫はマイナス36度もの寒さでも、生き抜くことができるのである。

冬眠中の生存

冬眠中の動物、あるいは休眠中の動物は、かなり無防備である。彼らはあらかじめ、安全な冬眠用のねぐらを用意する必要がある。動物が、六ヶ月も七ヶ月も、食べたり飲んだりすることなく生きていることは、非常に興味深い事実である。例えば、巣穴で冬眠中のクロクマの死亡率は1パーセント未満である。彼らの生存への脅威となるものは、洪水と、捕食者、すなわちオオカミ、イヌ、活動中のクマ、そして人間である。クマは、巣穴にいる際に飢えで死ぬことはほとんどない。飢えによる死は、ほとんどが冬眠の前か後に起こる。越冬中のクロクマは、いくつか、一般的ではないことを行なう。例えば、うたた寝しているクマは、生存に必要なものは全て、彼自身の体から得ている。脂肪組織は溶け、水分と日に4000カロリーを捕う。筋肉の組織や器官も、たんぱく質を補給する。

クマの体では、組織が利用される際に尿素が発生する。これはそのまま蓄積されると有害である。しかしこの尿素は、たんぱく質の新たな生成に利用されているのだ。

冬眠中のクマは、コレステロールが危険な高さになっていることが見受けられる。彼らは自分自身の脂肪で生きているのであり、彼らのコレステロール値は夏場の2倍以上になっている。(そして人間の2

倍以上に高い) しかクマは、動脈硬化の徴候またはコレステロールによる胆石の兆候などを見せることはない。研究によれば、クマは胆汁酸の一種を作り出すことが知られている。これは胆石を防ぐものとなる。犬小屋程度の大きさのスペースに閉じこもるのにもかかわらず、冬眠中のクマは、筋肉の束縛や骨の退化を避けているように見える。これらがどのように達成されているのかは、いまだ謎である。

冬眠中のクマは水を飲まなくても、脱水状態に陥らない。もし私たちがこの巧妙な代謝のしくみを学ぶことができれば、慢性腎不全に苦しむ人々を助けるための知識となるかもしれない。腎臓に入っている尿の量は、95%減少しているのだ。

冬眠中の動物には、病気はあまり見られない。クマに寄生する生物は、多くがクマの冬眠サイクルに適合し、冬場には自分たちの要求を減らす。医学の研究者たちは、人々にとっては問題となるような状況の中で、クマがどのように対応して生きているのか学ぼうと努めている。これらの研究の目的は、人間の病気、腎不全や胆石、肥満、食欲不振、神経症などの症状へ生かすことなのだ。研究者たちは、冬眠するクマの研究が、いつか宇宙旅行の役にたつだろうと期待してすらいる。

もう一つの謎がある。メスは、受精卵を彼女の子宮内で何ヶ月も携えている。この受精卵は、子宮壁に着床し、胎児へと成長する準備ができた状態である。しかし、メスの体が何らかのシグナルを送るまでは、それが行なわれないのだ。このシグナルについては、まだ正確には解明されていない。この適応によって、クマのお産は早すぎたり遅すぎたりすることなく行なわれる。これはメスにとって、食べ物の不足からくる脅威を取り除くものでもある。メスが、冬眠の為に巣穴に落ち着く頃までに十分な脂肪を蓄えていなければ、この受精卵は自然に流産となる。こういった仕組みを、自然な個体数の調整と見なす生物学者もいる。

冬眠中のクマに見られるホルモンに似た物質が、これらの生理的しくみをコントロールしている、ということは明らかにされている。これを他の動物、冬眠をするもの、しないものに移植した場合、冬眠に似た反応を示すのである。

結論として、私たちは冬眠について半分も事実を知っていない、ということが言えるだろう。冬眠は、この世界における主の存在のサインの一つであり、被造物への絶え間ない保護を示すものである。私たちは、冬眠する動物たちが、自分の意思で冬眠しようとしているのではないことを知っている。動物たちは、慈悲深き主の保護を受けているのだ。そして彼らは全て、神の、この世界という劇場のシナリオに従う役者たちのように、自分たちがやるべきことを行なっているのである。



もったいない

ケニア人ノーベル平和賞受賞者マータイ氏は、ケニアでグリーンベルト運動を展開し、貧困にあえぐ女性を動員して3000万本もの木を植林した方です。その方が、日本でみつけた素晴らしい言葉として「もったいない」があります。そういえば昔「もったいないおばけがでるぞー。」というコマーシャルもありましたが、節約したり、物を大切にしたりする気持ちは本当に大切だと感じます。昔私がアメリカで生活していた時などは、すべてが安いせいか何かが壊れるとすぐ新しいものを買ひ、ごみも分別せず（というか私のいた州ではそういう定めがない）、光熱費などもあまり考えて使ったことがありませんでした。環境問題などはあまり耳にしませんでした。そうした物質主義、合理主義の世界に何年もいて日本に戻ると、本当にうるさいほど環境のことや身の回りの節約の話が良く出てきます。私も帰国したときははいやいやながらでしたが、結婚してからというもの経済的理由も手伝って「もったいない」を連発してきました。しかしながら常にこれを行うのは面倒だったり、疲れてくることがあります。最近も二人目が生まれたからちょっとぐらい仕方がない、という感じで節約にも怠けがちでした。ところがある日、うちの主人が率先して節約をしているのを目にして驚かされました。自分が節約に疲れているときに彼がかかわってやってくると大変助かります。いくつか彼の行った節約術をあげると、トイレのタンクにペットボトルを入れたり（のちに失敗）、水を流すときにタンクのレバーを振り切らず、ちょろちょろと必要なだけ流すなどです。一般家庭の水道代の大半はトイレの水なのでこれを実践してからはかなり水道代が減りました。またこの間は、蛇口の水が温まるまでのつめたい水を洗面器に入れておき、後で洗濯機に入れたりしていました。男性でしかも外人がこんな細かいことをしているのを見ると、私もがんばらなくてはという気になります。主人にアッラーの報償がありますように、と願わずにはられません。

ハディースには、預言者様が2.5リットルの水で沐浴（グスル）を行ったとあります。これは1.5リットルのペットボトルにすると1本半ぐらいでしょうか。これで口、鼻、頭、体などを3回ずつ洗うことを考えるとノーベル賞並みです。

クルアーンにも「そして食べたり飲んだりしなさい。だが度を越してはならない。本当にかれは浪費する者を御好みにならない。」（第7章31節）とあるように、無駄のない生活が奨励されています。節約節約といってそれにはまってしまうのも危険ですが、財布の紐を緩めるときは緩め、閉めるときは閉めるというメリハリのある生活をする、身も心も引き締まるような気がします。





6 さあ、礼拝からはじめよう

型は、意味を伴ったものであるべきである

人とアッラーとのつながりにおいて基本となるものは、内面的なものであり、本質の部分であり、魂である。しかしそれらを担うのは言葉であり、形であり、型である。だから必ず、その言葉や、型に注意を払わなければならない。本質的な部分である意味や、意義を、その型が携えるべきである。だから、形や型に意味がないということとはできない。外面的意義はそれらに構築されるのである。

礼拝の内側に礼拝があり、断食の内側にも断食がある。だからこそ、「信者たちは救われた。救われた信者というのは、」に続けて、「礼拝において常に畏怖のうちにあり」とされているのである。「かれらは礼拝する」ではない。ここでは忍耐と継続性を示す型が使われている。つまり、「いつであれ、礼拝において畏れを感じ、謙虚であろうとする者が、救われる者となる」とされているのだ。一人の人について、その礼拝を見るだけで、彼が畏怖のうちにしようとする者であるかどうか、明らかにすることはできない。これは、人の良心とアッラーとの間の問題である。私たちは、よい方向で考えるよう努めている。

しかし、一部の人は礼拝において、断食においてあまりに不注意であり、また貞節という点でも、街中であまりにもひどい振る舞いをしているのだ。人がそれをどれほど肯定的に見ようとしたとしても、目にしてしまった振る舞いについての肯定的な考えをイスラームの範疇に収めることができないのである。

例えば、誰かが、タクビール（「アッラーフアクバル」と唱えること）をすぐに始めてしまい、あなたがまだファーティハ章を半分も唱えないうちに、ルクー（立礼）の姿勢に入っている。どれほど自らに無理を強いたとしても、その人について、彼は礼拝をしたのだということとはできない。

例えば、ルクーにおいて、正しいあり方で、正確な発音で、一部の法学者によれば一回、「スブハーナラビルアズィーム」と唱えなければならない。あまりにも早く唱えているようではその意味はない。一部の法学者によれば、それを少なくとも三回、唱えなければならない。だから、ルクーとサジダ（平伏叩頭）において少なくとも三回、ゆっくりと、きちんと発音しつつこれを唱えなければならない。私たちがこれより少なく唱えているのであれば、他の人が私たちについて肯定的に考えることを妨げることに

「昔々ユーフラテス川のほとりに、民衆から慕われたスルタンがおりました。壊れたつぼで水を汲み、愛するスルタンに捧げた人がおりました。もともと水源そのものがスルタンの所有だったので、このこわれた壺では、なかなか水をすくい上げることができません。それでも、一生懸命水を汲もうとした貧しい人のお話が伝えられています。

「こわれた壺」はその話に因んでいます。M.F.ギュレン師が語っている言葉を文字にした文章の訳です。（HPからの転載）

なる。

このようにして、いくつかの型は、私たちがそれに担わせようと努めている意味や意義を、持たないものとなる。それによって、私たちについてよく見なそうとしている人たちは、妄想や幻想を抱いただけになってしまう。

多くの人たちが、さっさと詠んでしまっているファーティハ章は、クルアーンではない。なぜならクルアーンは、そういう風に揭示されたのではないからである。そうやって大急ぎで詠まれてしまうファーティハ章によって行われた礼拝は、礼拝ではない。一息で、息が切れる前に節も終わらせようとあせりながら、息が切れたところで急いで、必死で息継ぎして詠まれるクルアーンによっては、礼拝でクルアーンの節を詠むというファルドを果たしたことはない。言葉は、その意味の外枠であるが、その外枠はそこでの意味にふさわしいものでなければならない。短時間のうちに、普通ではできないほどの物事を成し遂げるという事象はまた別問題である。誰かが私に「しかるべき形で節を詠みながらも、5分間で40ラカート、もしくは90ラカート礼拝した」といったことがある。神の特性という観点から、これはいつでも起こるものではない。一度その機会が与えられた者であっても、それを鼻にかけて語っていれば、二度とその機会は与えられない。

礼拝における畏怖

礼拝について、「内面において、合法的な形での礼拝」という表現がよく使われる。これは、畏怖や安らぎとつながりのあることである。畏怖は、礼拝の意義に関わる問題を引き出すものである。

礼拝における畏怖に関して私が何度も述べたとしても、どうかそれを多すぎるとは見なさないでほしい。信仰と礼拝は兄弟である。信仰が先に生まれた、というだけなのだ。我々の師は、礼拝が五回に割り当てられていることについて語った際、その意味についても解説している。ムヒイディン・イブン・アラビーは、礼拝に意味についての解説を示している。シャー・ヴェリユッラー・デフレビーは、礼拝に関するいくつかのテーマを語り、その重要性に注意を引いている。

だから、私は一部の友人にお願いしたのだ。誰か数人でいいからまともに礼拝してくれれば、規範となってくれれば。そうしなければ、私たちと共にある人々においてすら、真の意味での礼拝はされていないのだ。五回、伏せたり起き上がったりはしているが、礼拝はされていない。

さらに「礼拝する者の状態を見よ」というところで語られているのは、単に誤りという問題ではない。私たちには、礼拝に関する多くの不足点がある。例えば、「礼拝に立つ際、だらだらと起き上がる者」、これはその一つである。ハディースにおいて、人のそうした礼拝は、人としての行動から逸脱したものとされている。礼拝は、人間の振る舞いである。しかし適切なラインを守ることができない場合は、そこで

行われる振る舞いは動物のそれに似せられるものとなるのだ。

例として、イマームより先にルクーする人に対して、「ルクーから起き上がる時、アッラーがあなたの姿勢をロバに似せられることを望むのですが」とおっしゃられている。つまり、イマームより先にルクーを行うことは、しもべとしてのあり方を逸脱してしまうことを意味するのだ。

「誰であろうと、サジダするときには、おんどりがえさをついばむような形でそれを行ってはいけない。」といわれている。そう、それは動物の振る舞いである。額を地にぶつけて起こすというのは動物の振る舞いである。アッラーは、アッラーに対して行われるしもべとしての行為において、私たちが人間的な振る舞いへと招かれているのだ。「犬のように手をつかないように」といわれている。座る姿勢からサジダへ、サジダからルクーへ、ルクーからキヤーム（直立姿勢）へと至る動作が、動物の振る舞いに似ないようにと注意を引かれている。アッラーの使徒(彼の上に平安あれ)は、これらの聖なるお言葉によって、私たちが、人間らしい振る舞いへと招いておられるのである。

そう、畏怖はただ、その型によって明らかにされる。「私は畏怖の中にいる」といったのならば、動物的な型から脱却しなければならない。アッラーの、畏怖に対する褒賞は、その褒賞を携えることのできるもののみが、受け取ることができるのだ。

礼拝が解き明かされること



礼拝の精神、意義というものはすぐに解き明かされるものではないこともありえる。礼拝の精神が解き明かされた人は、最も心地のよいことに没頭しているときでさえ、飛び上がるようにその場を離れて礼拝に立つことを望む。そして礼拝から喜びを得る。常に、ではなかったとしても、何度となく、「この世が決して終わらないものであったら、私もずっとこうして礼拝に立つことができたら。」という。

しかし、これが解き明かされるためには、時として20年、時には30年、場合によっては40年という年月が必要となる。40年間、腹の上で両手を組み、その扉の前に立ち続けるのだ。そうした時のみ、礼拝があなたに解き明かされるであろう。

礼拝の本質が解き明かされた場合はどうなるのか。その時まであなたは、礼拝の金鉱を求めて、鉱山で土まみれになって動き回った。あなたはそれを続けた。この鉱脈からあの鉱脈へ、と。そしてある日、あなたは自らをその宝の中に見出したのだ。その瞬間までのあなたの努力はすべて金となったのではないだろうか？

聖クルアーンの衣を纏う者章8節では、「それであなたの主の御名を唱念し、精魂を傾けてかれに仕えなさい。」とされている。動詞の活用から、一種の強制であることが示される。そして、最初に、預言

者ムハンマド（かれの上に平安あれ）に対してこのような呼びかけがされているのである。

預言者ムハンマド（かれの上に平安あれ）は時と共に、「あなた方が飲み食いや性交渉に対して感じる欲望を、私は礼拝に対して感じる」とおっしゃられるような状態に至られたのである。このように、この点においてあなたが粘り強く、忍耐強くあれば、礼拝の意義のペールがあなたの中で開かれるのを待ち続ければ、やがて、人々が「天国に食卓が整えられたようだ」といったとしても、「礼拝しよう、それからのことだ。礼拝を犠牲にすることはできない」というような状態に至るだろう。天使イズラーイール（死にゆく者の魂を奪う天使）が訪れたとしても、「できれば、時間が来ている礼拝を行いたい、時間が過ぎてしまわないように。それからなら、何をしてもいい」というだろう。

死にかけてさえいようと、礼拝を行おうと努めるような精神的状態に達するだろう。もはや、礼拝と同一となっているのだ。

フバイブが殉教する間際、あらゆる提案を拒否し、ただ礼拝することを望んだということをも、この形で理解することができる。もはや礼拝は、かれの魂に匹敵するものであったのである。





前回の記事で述べた、「第9の言葉」における事実は、私に、新しく入信した人々の、礼拝に関する言葉を思い出させた。

「ある日の午後、私は、ムスリムたちがやっているのをいつも見ていたやり方で、ひざを折り、頭を地面につけてみました。そしてアッラーが私に道を示してくださるよう求めました。この姿勢をとると、非常なやすらぎを感じました。多分その瞬間、私は精神的にはムスリムだったのかもしれませんが、でも、立ち上がった時には、私の知性はまだ入信するには十分ではない状態でした。数日後、私は入信しました。アッラーを知り、受け入れることによって、魂と知性の自由へと開かれた扉を私は見つけました。」(ケリメ・スラック・ラジ)

「過去、神に、どのように崇拝すればいいのか教えてほしいと求めたことがありました。その意味から、ムスリムの礼拝は私にとって最大の関心事でした。そして私も、礼拝を始めたのです。」(ターヒレ・Y・テレサ・イヤウッド)

「学校が休暇中で、家にいた時期のことでした。麦畑の間のほこりっぽい道を歩いていました。日が沈みました。その時、その時間が崇拝行為を行うべき時間であり、神に対してこうべをたれ、信仰行為を行う時である、というインスピレーションが沸いたのです。でも、これは、それ以上のことを自分で理解できるようなものではありませんでした。一時的な空想、あるいは、無神論が真実の生き方ではないということに気づく発端に過ぎないものでした。

ナイル川の岸辺で、私が習慣的に散歩をしていた庭園の近くに住む、ある人の所に行った時、彼は水辺に置かれた板の上で礼拝をしていました。私は彼の前を通ろうとしていました。突然私は、彼の邪魔をしないようにと引き返し、彼の後ろを通ったのでした。遠ざかる前に彼を見た際、彼は私の存在など知ることもなく、彼やその宗教に対する私の思いなど一切知りもしない一人の人の、アッラーに対する畏怖に満ちた敬愛の念を私はそこに見たのでした。

ここで、非常に気になることが一つありました。人の前で礼拝を行うこと。これは、一人の西洋人にとって、完全に奇妙なことでした。

一人の人間がムスリムになるといふことは、彼自身の知能や意志の優秀さによるものではなく、アッラーの慈悲のおかげなのです。事実、1977年、カイロで、私をイスラームに導いた事実はこれだった、というのが私の結論なのです。」(ヌーン・ハー・ミン・ケラー)

「ある時息子が、『お母さんはどうしてムスリムにならないの?』と聞きました。私はショックを受け、『絶対にならないつもりよ。』といったのでした。息子は、『イスラームは最高に純粹できちんとした教

えだよ、日に5回、崇拝行為をしているよ。』といったのです。その時、イスラームに関する本や、クルアーンの解釈を読んでみることを決めたのです。クルアーンを読むに従い、これが私のための教えであるという結論に達していきました。私はアッラーに向かい、そしてイスラームを、やすらぎを、平穏を得たのです。」(ファーティマ・リーベンベルグ)

「私は、愛情、精神の真実、そして神を考えるという点において深められた、一つの教えを見つけました。イスラームのおかげで、自分を24時間、週に七日、アッラーの存在を意識しながら生きるようになりました。5回の礼拝のそれぞれの時間に注意を払っています。人生を通して探し続けてきたものを、やっと見つけました。」(デイヴィッド・ブラデレリ)

「サジュダをした時、あたかも平和を手に行っているようです。より安心できる状態だと感じられません。やすらげる環境にいるように。サジュダをする時、あたかも遠方から家に戻ったような気がします。多分、アッラーに至ったみたい。こうとしか解釈がつけられません。礼拝は、やすらぎであり、安泰であり、平穏の感覚なのです。」(Dr. ティモシー・ジアノッティ)

「私たちが行う礼拝は、私たちの最大のよりどころです。礼拝の最大の特徴は、アッラーを想起するために私たちの前に用意された停留所である、ということです。礼拝の時間は、私にとって本当に、精神を休める時間となるのです。」(Dr. ロシャーナ)

「クルアーンが読まれている時は、自分をいい状態だと感じています。私はアラビア語はわかりませんし、言葉の意味も知りません。でも、その旋律、読まれ方がとても好きです。礼拝する時は、アッラーが私のことを聞いてくださっているのを感じます。何か悩みがある時、職場のことや夫とのことで問題を抱えている時、それを誰にも話さずにいると、崇拝行為を行う時に心に浮かびます。礼拝が終わった時は、自分が楽になった気がします。それらはもう問題ではなくなっているのです。なぜなら、その答えがやがてもたらされるからです。」(サンドラ・ハッサン)

私たちの心の糧、魂の生命の水、神のご厚情の清らかな雰囲気を引き寄せる礼拝について、初めてそれを知る人たちのような新鮮さのうちに、そしていつでも新鮮さを保つものとして感じ、神聖な喜びでいっぱいになっている。

私たちにも何かすべきことはないだろうか？





2月といえば、節分です。豆まきです。そしてバレンタインディです。チョコレートです。チョコレートと言えば、私はチョコレートの出てくるお話が大好きです。ロアルド・ダールの『チョコレート工場の秘密』はその意味では最高です。それこそ大量に出てきます。でも、ほんの少し顔をのぞかせるチョコレートが、それがもつ本領を十分に発揮していることもあります。

『思い出のマーニー』という本とは、大学の先生に紹介してもらおうという、私としては珍しい出会いをしました。しかも、紹介してもらってすぐには近所の図書館になく、あとになって偶然新しく入ったのを発見できたのでした。先生は小さい頃からこの本が大好きだったそうです。その先生は、心理のカウンセラーでもある方だったのですが、この本を読んで「なるほどな」と思いました。

物語は、両親を事故で失い、おばあさんも病気で亡くし、養い親のもとで生活していたアンナが、いきなり旅に出るシーンから始まります。ファンタジーとはかけ離れた、非常に現実的な状況です。アンナを送り出す、養母のミセス・プレストンは、読者の目にはとても親切そうです。でも、明らかに、アンナとの関係はぎこちない様子です。アンナも、表情も動きも何もかもが硬い感じですが。どうしたんだ、この二人は？と思ったところで、出てくるのがチョコレートです。ミセス・プレストンが道中にと、アンナに渡してくれます。そのチョコレートをきっかけに、アンナもやっとひとこと、ミセス・プレストンにお礼を言うことができます。

その後で、アンナが旅に出ているわけが分かってきます。アンナは、ある事をきっかけに、「何にもしようとしなさい」「やってみようとしなさい」ことが多くなります。喘息の発作でお医者さんが来たとき、「転地」をしてみようということになり、ミセス・プレストンの知り合いの、海辺の村の老夫婦、ペグおじさんとペグおばさんに預けられることになったのでした。それでノーフォークへ向かっているのです。

結局、アンナの「自分探し」の旅なんだなあ、と読んで思いました。途中から出てくる、「マーニーとは？」という謎がこの物語の中心なのですが、それもアンナへとつながっているのです。それから、いろいろな「愛」の形があるんだなあということも思いました。まずもって、ミセス・プレストンは本当の親ではありません。ペグおじさんペグおばさんはもっと他人です。後で出てくるリンゼー一家の人々に至っては、最初は全く見知らぬ人たちでした。だけど、アンナをとっても大切に思っているし、愛している、そんな感じが読んでいると伝わってくるし、やがてアンナもそのことに気がついてきます。そして、相次いで亡くなった両親や祖母へのとらえ方の糸口も見つけたように、私は思いました。

海や入り江、「しめっ地」などの描写もすてきな、『思い出のマーニー』原題は“WHEN MARNIE WAS THERE”、ぜひどうぞ。

2作目は、エンデに次ぐドイツ・ファンタジーの旗手と呼ばれることもある、ラルフ・イーザウの『ネシャン・サーガ』です。

この作品ともおもしろい出会いをしました。私の卒業した大学の図書館では、利用者の声を集める箱というのがあり、そこにいろいろな投書がありました。後にその投書は返事をつけられて、ボードに張

り出されるのです。その中の一つに、「『ローワンと・・・』シリーズと『ネシャン・サーガ』ぐらいあって当然ではないか？」という意見があったのです。何が当然かというと、当時『ハリー・ポッター』シリーズが流行になっていて、教育系大学の図書館としては、他のファンタジー作品の一つや二つ「無いと困るってもんでしょう」、というような話だったと思います。ふ～んと思いつつ、『ネシャン・サーガ』が入ったや否や、その投書の人よりも先に借りてしまったように記憶しています。とんでもなく分厚くて、図書館の閉館時返却ボックスに入れるのがしのびなかったことも憶えています。

この作品は、文句なしにファンタスティックなファンタジーですが、その特性をうまく生かし、根底に流れる「全き(まったき)愛とは？」というテーマに、非常に真摯に向き合っている感じがします。ただの「現実離れ」した話、では全然無いところが魅力だと思います。主人公のうちの一人の少年が、足が不自由で、車椅子を使って生活しているのですが、彼の話などもとても現実的です。そして、スケールが大きいです、やはり「自分探し」なんだなあと思われまふ。

分厚い長編ですが、一気に読めること請け合いです。ムスリムの人も、この作品を読むと結構、考えるヒントを得られることが多いと思います。

+++今回から、「・・・2冊。」ではなく「2作。」と改めました。上下巻など、必ずしも2冊ではない作品もあるからです。今回ご紹介した『ネシャン・サーガ』などは、コンパクト版の場合全9冊になります。もし冊数でいった場合今回は最大「・・・11冊。」になってしまうところでした！！+++

今回ご紹介した本。(筆者の手元にある、もしくは記録にある版より。)

☆『思い出のマーニー』(上・下) ジョーン・ロビンソン作 松野正子訳 岩波少年文庫

☆『ネシャン・サーガ』(全3巻) ラルフ・イーザウ作 酒寄進一訳 あすなる書房

・『チョコレート工場の秘密』ロアルド・ダール作 柳瀬 尚紀訳 評論社

・『ローワンと魔法の地図』など、リンの谷のローワンシリーズ エミリー・ロッダ作 さくまゆみこ訳 あすなる書房

購読価格(郵送料込み) バックナンバーは、1部 200円(日本以外は1部 250円)

国内: 1ヶ月 250円、 6ヶ月 1300円、 1年 2500円

国外: 1ヶ月 300円、 6ヶ月 1600円、 1年 3000円

郵便振替口座番号: 00140-4-574489 口座名義: Yasuragi

三井住友銀行 店番号: 005(春日部) 口座番号: 7315959 口座名義: Yasuragi

皆様のご意見、ご感想、ご質問をこちらのコーナーまで心よりお待ちしております

<http://www.yasuragiweb.com> info@yasuragiweb.com yasuragi_nihon@hotmail.com

〒168-0074 東京都杉並区上高井戸 3-10-6, 404

「やすらぎ」編集部